

子ども食堂の実施状況について

1 事業概要

仕事等で保護者の帰宅が遅くなるご家庭の子どもへの孤食を防止し、幸福感や安心感を与える居場所を提供するため、親が帰宅するまでの間、子どもたちが多くの人たちと触れ合うことができる子ども食堂を、モデル事業として平成28年9月28、29日から八幡東区の尾倉市民センターと小倉北区の日明市民センターで開始した。

(1) 対象者

仕事等で保護者の帰宅が遅くなる家庭等の小・中学生

(2) 事業内容

- ① 子どもたちと共に調理し、食卓を囲みながら温かい食事を提供
- ② 学習習慣の定着などの学習支援
- ③ 基本的な生活習慣の習得の支援や生活指導

(3) 実施場所・頻度・時間

◎尾倉市民センター 「尾倉っ子ホーム」

毎週水曜日 17時～21時

◎日明市民センター 「日明げんきもりもりハウス」

毎週木曜日 17時～21時

※ともに祝祭日および年末年始、市民センター行事日は休み

2 事業実績（平成28年11月10日現在）

(1) 参加者

尾倉		9/28	10/5	10/12	10/19	10/26	11/2	11/9
	登録者数	10	台風のため中止	28	市民センター行事	30	30	30
	参加者数	31		25		22	21	20
	学生ボランティア等	5		10		12	10	10

日明		9/29	10/6	10/13	10/20	10/27	11/3	11/10
	登録者数	7	18	18	市民センター行事	18	祝日	23
	参加者数	29	18	18		13		16
	学生ボランティア等	8	7	5		5		3

(2) 衛生管理・食物アレルギー対応・安全対策等について

開所までの間、受託団体のスタッフやボランティアに対し、衛生管理や食の安全の確保を徹底するため、保健所での研修や市の管理栄養士による現場での事前研修を実施。

開所後も、市の管理栄養士による現場での衛生管理や食中毒の防止、食材の点検など食の安全確保を確実にを行い、食物アレルギーにも十分に配慮するとともに、子どもの迎え対応の徹底など子ども達が安心して過ごすことのできるよう指導している。

8月	保健所において、衛生管理上の注意点や食中毒の危険性等について研修
	両市民センターの調理室において、受託団体向けに衛生管理について研修
9月	両市民センターで、食事メニューの方向性と衛生管理、食材の選び方などについて、受託団体に指導
随時	受託団体から提出されるレシピを基に、栄養バランスや分量について事前指導
	市民センターで衛生管理やアレルギー対応について指導
	新規登録者に対するアレルギーの確認や迎えに来た保護者に子ども達を確実に引き渡すなど、子どもの安全確認について受託団体に指導

3 行政視察およびマスコミからの取材件数（7月15日～11月10日）

行政（20件）：堺市議会・渋谷区議会・熊本県・加古川市など
 TV取材（10件）：NHK、RKBなど民放5社、JCOMなど
 新聞取材（9件）：読売・朝日・毎日・西日本・共同通信社ほか4社

4 利用者等の主な意見

【保護者】

- ◎多くの大人と一緒に食事が出来て、とてもありがたい取り組みだと思う。
- ◎大学生とのコミュニケーションがとても楽しい。と子どもが喜んでいる。
- ◎子どもが毎回楽しみにしている。挨拶などが出来てなければ注意をして欲しい。
- ◎仕事の関係で食事時間が遅くなることも多々あるのでとても助かる。
- ◎放課後児童クラブの先生も一緒にいるので安心。
- ◎食事の献立表が欲しい。作り方を教えて欲しい。
- ◎宿題を終わってから遊ぶように指導して欲しい。
- ◎無料で参加できる感謝の気持ちを忘れないためにも、社会貢献的なイベントを実施してはどうか。
- ◎開催情報や休みの連絡をSNSやメールなどでできるようにして欲しい。

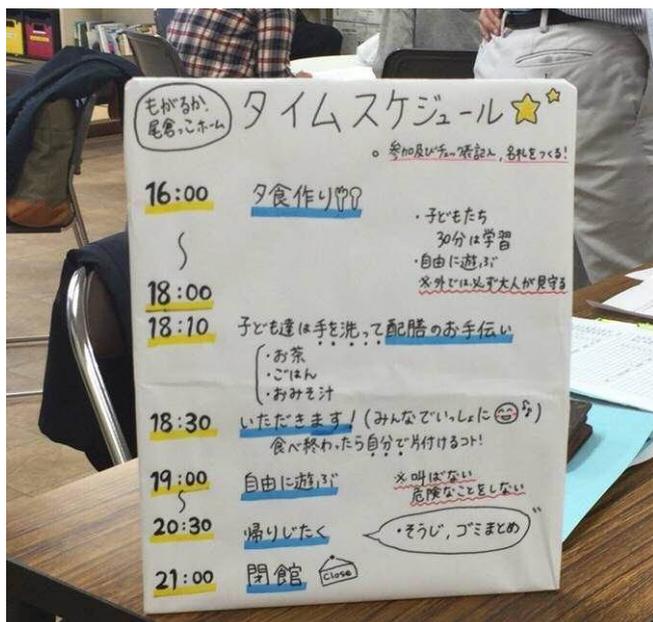
【子ども】

- ◎大学生のお兄さんやお姉さんが話しをしてくれるので楽しい。
- ◎勉強したり、本を読んだりできて楽しい。
- ◎お誕生会やクリスマス会、おやつ作りがしたい。
- ◎調理実習をしたい。
- ◎百マス計算大会やなぞなぞ大会、風船バレー大会などレクリエーションがしたい。

5 今後の取組み

- ◎学習支援や生活支援などのあり方や地域との連携などについて、受託団体との運営（検証）会議を随時実施
- ◎開催日や献立表などの子ども食堂の運営に関する情報発信（フェイスブックの立ち上げなど）
- ◎調理実習、歯磨き教室など私生活においても役に立つ事業の開催

【参考】 一日の流れ



①一日のスケジュール

子ども食堂に来るとまずは受付。

受付後は、食事の準備が出来るまで、上級生組と下級生組に別れて宿題やプリントをする。

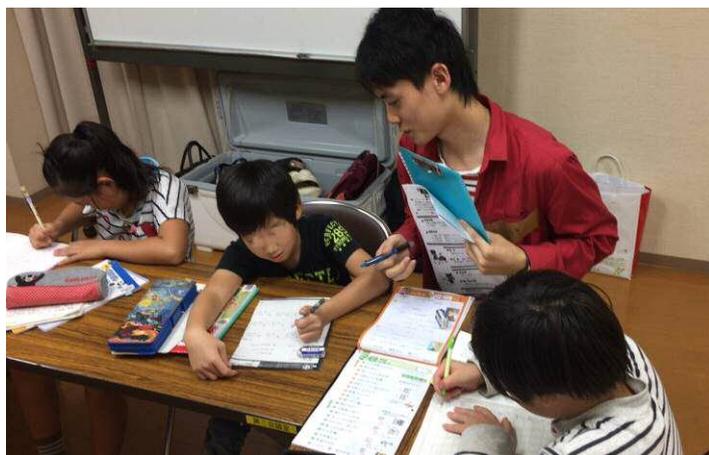
食事後は、勉強組と遊びや工作組に別れて、各々の時間を過ごす。



②受付

子どもたちが元気に「ただいまー」と言いながら、受付で名簿にチェック。自分で作ったガムテープの名札を胸につけて、学習支援の部屋に行く。

子ども達の来所は、放課後児童クラブが終わる 17 時ぐらいがピークになり、市民センターが一気に賑やかになる。



③学習支援

北九州市立大学、九州女子大学、九州国際大学などの学生が子どもたちとコミュニケーションを図りながら、学習支援を行っている。

子どもたちは宿題の他に、受託団体が準備したプリントなどをしながら、苦手科目の克服などに取組んでいる。



④調理

調理をする前に使用する食器や調理器具を消毒し、調理スタッフの健康チェックをする。

調理は、企業や地域の方々から提供された食材をチェックしながら、栄養バランスやアレルギー児対応を考えて行う。

野菜は必ず湯通しするなど、食中毒予防にも努める。

メニューについては、毎回、「主食・主菜・副菜」を必ず取り入れ、野菜は100g以上使うようにしている。

調理スタッフは、受託団体スタッフの他に食生活改善推進員や地域のボランティアなどで構成されている。



⑤食事

人数が多いため上級生組と下級生組に別れて食事を行う。それぞれの部屋では、学習支援のボランティアも一緒に食事を行う。

配膳は、ボランティアと上級生が行い、後片付けはみんなで行う。

多くの子ども達がおかわりをするが、苦手な食べ物を残す子どもも少なくない。ボランティアが「一口でも食べてみて。ダメなら無理じゃなくていいから。」と優しく声を掛けながら、子どものペースと一緒に食事をするように心掛けている。



⑥工作（自由時間）

食事の後は、各々が自由な時間を過ごす。

宿題の続きをしたり、工作をしたり、本を読んだり。

子ども食堂では、子どもたちが自宅でも自分たちで時間を管理しながら規則正しい生活が出来るようすることを目的に、一日のスケジュールを組んでいる。

基本的には「学習」⇒「食事」⇒「片付け」⇒「自由時間」という流れで事業を実施している。



⑦後片付け

子どもたちは、食事を終わると食器を調理室に運び、食器洗いの当番になった子が、みんなの分の食器を洗う。

ボランティアは、食育の観点から「食器の洗い方」や「みんなでごはんを食べる楽しさ」を優しく話しながら楽しく一緒に食器洗いをする。



⑧保護者の迎え

20時過ぎになると子ども達の保護者が迎えに来る。

スタッフは、保護者に子ども達がどんな様子で過ごしていたかなどを報告をしている。

保護者もスタッフの話を聞きながら、家庭では見せない子どもの姿に興味津々である。

子ども達も帰るときは、スタッフに「ありがとうございました」と頭を下げて帰宅の途につく。